

おい、ちやんの米を食べ続けるために
水戸市立内原小学校四年 渡邊 心優
土が落ちてないよ。
順調だった種まきが、急にストップした。
ぼくのおじいちゃん、種まきからいねか
りまで行う米農家だ。毎年、四月になると田
んぼの作業が始まる。その一つがいねの種
まきだ。おじいちゃんの家では、ベルトコン
ベアーの様な機械を使って種まきしている。
この機械に育苗ボックスを入れると、自動で土
をしき、水をかけ、種もみをまき、種もみに
土をかけてくれるのだ。
「高かったけど、買ってよかった。」
おばあちゃんは、毎年種をまくたびに「
いるが、機械に土や種もみ、育苗ボックスを入
れるのは手作業だ。それに、種まきがすんだ
育苗ボックスは、ハウスに運んで平らにならば
ならない。」
「そんなに言うほど便利かな。」
ぼくは、すっかりしり重たい育苗ボックスを運ぶな

が。そう思った。
そんな時、機械にトラブルが発生した。
「機械が動かないなら、今日はできないない。
と、ぼくがあきらめた時、
「よし、手まきだよ。
と、おじいちゃんと言った。
「昔はそうだったんだからよ。
と、おばあちゃんはおろいながら言った。それからは、機械でできなくなつた土かけが手作業に加わりだれ一人よゆうがなくなつた。
みんな必死に作業したけど、種まきが終つた時には、お昼をとくにはすぎていた。ぼくは、話す元気もないほどへとへとになつていた。おばあちゃんが「んが口ぐせの様に言つてしまふ気持ちか初めて分かり、機械や科学技術の大切さについて考えるきつかけとなつた。
ぼくは、夏休みに行つた大阪関西万博で、いのちや未来社会の最新技術をたくさん体験した。万博での体験は、人と新しい技術が共に協力し、足りない部分をおぎない共に生き

る社会だった。
これが未来の社会か。
と、思った時、高専で機械せいぎょやデータサイエンスを学ぶお兄ちゃんが、
テクノロジで、いちゃんを助けるよ。
と、言った言葉を思い出した。おじいちゃん
は、
「機械にはトラブルはつきものだ。それに、
米づくりはいつも同じじゃないからな。
し、あら？ と言っていただけど、ぼくは、おじ
いちゃん
のけい験や知しきと、お兄ちゃん
の
技術が合体した農業が未来の米作りだと思っ
た。おじいちゃんは今もうすぐハチ才。米作り
の面白い化問題は、人事ではない。でも、そ
んな未来なら、おじいちゃんはまだ米作
りを続けていける。おじいちゃんには、ずっ
とずっと米作りをしてほしい。ぼくは、これ
からもおじいちゃんが作るお米を食べ続けた
い。